

伊勢湾の抱えている問題点について

中 田

- ・ 干潟等に生息している二枚貝は、植物プランクトンや有機態の懸濁物を吸収して、貧酸素水塊形成の要因となる有機物を減らす。しかしながら干潟がなくなること、二枚貝等がいなくなり、海底が貧酸素化し青潮の発生へと繋がる。またそれにより、干潟にいる生物が死滅し、干潟の生物がさらに減少し干潟の浄化能力が低下する。このような「負のスパイラル」にどんどん陥っている。ここから脱却するためには、干潟をいかに復活させるか考えていく必要がある。
- ・ 伊勢湾沿岸に住んでいる方に、いかに干潟などが大事かということを認識してもらうことが、非常に重要であり、環境基準だけでなく、海に出て行って取れるデータや分析の必要のないデータから、海の状態を誰でも知ることができるような手立てを考えていく必要がある。

畑 井

- ・ 外洋を含めた水産物の生産が減少し始めたのは、三重県全体では昭和60年以降だが、伊勢湾だけで考えると昭和48年からであり、十数年早く伊勢湾の水産物の減少傾向が起きていた。
- ・ 砂地や底質で生息しているものは、極端に減少しており、一番の例は桑名のハマグリである。ハマグリは昭和40年代の100分の1以下まで低下している。
- ・ 平成9年より、三重漁民の森づくりを開始し、最近では飛騨川の上流で三重県と愛知県の漁師達が植林、下刈りをし、森と海との連携で水質を良くしていこうといった運動展開をしている。

蔵 治

- ・ 江戸時代に人工的に森林を創る技術が出来てから、明治時代、戦後の時代の後、木材が不足した高度成長期のスギ、ヒノキの造林による急激な森林増大や、都市化に伴い森林開発による減少等を含めて、今現在の森林面積は62%を占めている。
- ・ 最近の森林における問題とは、例えば2004年の台風21号で宮川の最上流域が崩れ流れてきた木材が伊勢湾を縦断し、知多半島側に流れ着いたように、人工的に植えられた森林が崩れ、土砂や土壌が、川を通じて海に大量に流れ込むことである。

柴 田

- ・ ダムのない長良川では、一度雨が降ると、上流も含めて166kmもある河原のごみが全部伊勢湾へ流れていく。かつては、「水に流す」という文化があったが、やめていかなければならない。
- ・ 岐阜の山林は、枝打ち、間伐がされていないため、少しの雨で真っ赤な水が流れる。それで川そのものが荒廃し、生物が減少しているため、山林再生に力を入れている。

永 田

- ・ 昔は潮干狩りや、海水浴、船での移動等により海に行くことが、日常の一部であったが、今の小学生は海に行ったことがない子供が多い。それは、その親も行ったことがない場合が多く、海とのふれあいをもつ機会がないからである。
- ・ 子供にとって、触ること、見ることによって得られるものは非常に多い。そのため環境教育ではそのような点に意識する必要がある。

次世代に継承していくために、NPOや行政がこれからどのように取り組んでいくべきか

畑 井

- ・ 三重県の水産基盤室で、実験的に造成をやっているアマモを伊勢湾全域に広げていきたい。
- ・ 木を植えて海がよくなるということは100年先、200年先のことだが、その活動を通じて、山と川と海と町の連携というものを、森づくり、木を植える行動等で続け、流域全体で水の流れを考え伊勢湾の保全運動をすすめたい。

蔵 治

- ・ 漁業をされている方が森林に興味を持って運動することは良いことだが、森に一番必要なのは植林ではなく人工林の手入れであり、そのようなことについてコミュニケーションが不足しており今後は、連携していく必要がある。
- ・ 多くの人に森に対して関心を持ってもらうために「森の健康診断」をやっており、これにより森の現状を知ってもらう機会を提供している。
- ・ 森に落ち葉や、下草が生えていると降った雨はしみ込むが、それらがいない場合はしみ込まず、地表面を水が流れ土砂を押し流してしまう。そのため、間伐により光を森の中に入れたり、下草を整備することが必要である。間伐等の整備がされていない悪い森でも、間伐を実施することで、3年ぐらい経つと良い山になる。

柴 田

- ・ 長良川環境レンジャー「川ガキ。長良川に集合！」では、大学生が主体になって主導しており、大学の単位にも認定されるなど、「学生レンジャー」が上手く機能している。今後は、山間部、海、川の子どもたちが交流することにより「子どもレンジャー」を創っていきたい。
- ・ 上流、中流、下流の子供達の交流活動を通して、川に関心をもたせたと同時に、親も一緒に川に来て、「いい子は川で遊ばない」という考えを崩したい。そして、この長良川を今の子どもたちに引き継いでもらうことが私たちの目的。

永 田

- ・ 環境学習や総合学習の中に、海の学習は含まれていない。そのため、まず環境学習の場として、海を提供できるような状態にしたい。
- ・ 子供に体験させるためには、まず親や先生に理解してもらう必要がある。

まとめ

- ・ まず現場に来て、体験することが、関心を持ってもらうためには重要である。
- ・ 行政が主導するのではなく、後ろでバックアップすることが重要である。